



末路

閃の軌○ 凌辱CG集

「いたく手いぢもらわやがっ」と

「ふっ……んぐ……」

「ふう〜
思ってた以上に手強かったな」

「戦わずすぐ逃げてりや
まだ助かったかもしれないのに
判断誤ったねアリサちゃん(笑)」

「ふっ……っ」

びく

びく

ぶるん

ぶるん

すぢすぢ

すぢすぢ

「よし
オレは口でももらおうかな」

「ぶっ…んぐツ!!」

びく

ぐぼッ

ピクッ

「一応言っとくが歯は立てるなよ?
人前に出れない顔になるのは嫌だろ?」

「そっそっ彼氏の…あゝなんとかの騎士様に
嫌われたくないだろアリサちゃん(笑)」

「っ!!」

ぷるん

ぷる

すちゅ

すちゅ

「おおお……ふっくら!!」

射精^でる! 射精^でるっ!!」

「ふっくらんっ!!」

じゅっほっ

じゅっほっ

じゅっほっ

ビクッ

クッ

「ぐっ……ご……ごっちも射精^でるッ!!」

オレ様の種汁
しっかりと味わって飲むんだぞ」

「ぐっくらんっ!!」

ビクッ



「アリスさま●に良すぎたて
射精止まらねえ…ツ」

「んづツ…お…づツ!
ぐツ…づづツ!!」

ドクッ

びゅるるッ

「ふお…お…お…お…お…
腰が溶ける…ツ」

「ぶ…ツぐー!
ぶツ…おおツんぐ!!」

「出したんならさっさと交代しやがれ
後がつかえてんだぞ」

ビクン

びく

びゅるるッ

ビクン











「アリサちゃんゴメンね
あいつ等自分の事しか考えてなくて
オシはちゃんとアリサちゃんも
気持ち良くしてあげからね(笑)」

「くっ……ふざけ……ないで
気持ちよく……なんて……」

「助けなんて来ないし
諦めてセックス楽しめって」

「あ……んぐッ
ヤッあ……ひう……」

「このでか乳も可愛がってやるよアリサ」

「っ!!ま……まっ……
ひいああッ♡」

「おっ?
アリサちゃん乳首が好きなのか(笑)」

「や……い……や……
お……ねがい……ゆる……して……」



「ひゃッ! あッやッ
ひゅっ! ひゅっ! ミゅっ!」♡

「へへッ乳首が
そんなに気持ちいいのかわ」

「やめ…ンッあ…んぐッ!!
やッ♡はッ♡」

「お…ぐッ…すげッ
弄る度に締りが…ッ」

「ふ…ッ! ふ…ッ♡
や…ぐ…りぐりしないですッ
しないでえええッ!!」

「弄られるの好きなんだろう?
もっと激しくしてやるわ♡」

「やあああッ!!」



「ほらほら
乳首ぐりぐりっ」と

「やめッ…おが…しく
ひゃあああッ♡
ち…ぐびやらッ!
やらあああッ!!」

「我慢せず
おかしくなっちまえよアリサ」

「やめてやめてえええッ!!
イぐッイぐっ♡
ああああッ!!」

「おらッおらっ!!
イけッ!!イけアリサッ!!」

「ひゃ
あああッ!!
イぐッイぐッ!!」

びゅ♡

びゅ♡

びゅ♡

びゅ♡

びゅ♡

びゅ♡

びゅ♡

いっ
いっ
いっ

いっ
いっ

いっ
いっ

いっ
いっ

いっ
いっ









「おあアリサちゃん
続きを始めるとするか」

「つてオイオイ
もうま●こ濡れてるじゃねえか
オレ達のち●ほがそんなに
待ち遠しいのか(笑)」

「くっ……ふん♡
さわら……ないで……ッ
やッ♡んんッ!!」

「強情だねえ
まだ助けが来ると思ってるのか？」

「はあ……はあ……みんな……
リインは絶対に助けに……」

「来ないって
だってアリサちゃんは
もう死んだことになってるからね」

「……えっ？」



トロオ

「な……なに……にそれ
ど……ど……ど……い……い……い……」

「アリスちゃんの服と
適当な死体を合わせて
ちよいちよいとね」

「死体の偽装なんて
オレ達にとっちゃ
朝飯前だからな」

「な……じよ……冗談……
冗談でしょ……?」

「今頃お友達やリン君は
アリスちゃんの死を
悲しんでるんだろうな」

「あ……どうかな
リン君もうアリスちゃんの事なんて
忘れてラウラって娘とセックスしてたりして(笑)」

「う……うそ嘘嘘ツ!!
そんな……そんなこと……!」

ガク

ガク

ガク

ガク



「つう事だからさあ諦めて
肉便器になれアリサッ！」

す

ぶ
ッ

「んぎいッ!!」

「オレ様の子宮口責めで
ガンガンイカしてやるからなアリサ♡」

「や...あ...
リイ...ンた...すけ...」

「へへッ彼氏の事なんて
すべしおれをオセしてやるよ」



「ふっーっ！ふっー！」

「どうだアリサッ!!
オレ様の子宮口責め最高だろ!？」

「やッ♡あッあッ♡
おぐやらッやら♡
づがないでええッ!!」

「ハのヒロの鳴き声
マジでち●ほにクる…ッ」

「おぐッイぐッ♡イぐがら
ひゃめ…ああああッ♡」

「射精すぞッ射精すぞ!!
種付けでイかしてやるアリサ!!」

びん

ぞく♡

ぞく♡

びん

「やらやらやらあああッ!!
イぐっ♡イぐッ♡イぐっ♡イぐッ♡イぐっ♡イぐッ!!」



びびり

「あゝ……♡
はあゝはあゝ……♡」

「ふうふうふう……
アリサま●こマジで名器だわ……」

「次オレね
アリサ頭おかしくなるまで
アへらしてやっからな♡」

「や……いや……いや……
ゆ……る……て……ゆ……る……て……」

グ

グ

ッ

どろどろ

びびり

びびり

びびり

びびり

びびり

びびり

―数時間後―

「孕めッ孕めアリサ!!
オレ様の特濃ザーメンで孕んじまええッ!!」

ビッ♡

ド
クッ

び
び

び
び
る
る

「う…あ…あ…」

「ふう〜駄目っほいな
アリサちゃん」

「んじゃそろそろ薬の出番だな」

「アリサちゃん
まだまだ頑張ってもらっからな♡」

ビッ♡

びん♡

「リ…イン
たは…やく…はや…く
すけ…」















ずちゅ

ずちゅ

「お、気持ちいい……
ユウナちゃんの初物ま●こ
たまんねえわ」

「あ……ぎ……んぐツ……痛ツ
離せ……離してツ!!」

「もう少し手こずるかと思ったが
楽勝だったな」

「言っただろ?
善良な市民を装えば大丈夫だって(笑)」

「へ、ユウナちゃんって
クロスベル出身なのか」

「あ、属州民か
どうだユウナちゃん
帝国人様のち●ほは?」

「ふ……ふぎ……あッが……ツ
んぐ……ツ!!」

「はあふう……そろそろ射精すぞツ!!
種付けしてやるからなユウナ!!」



ずちゅ

ずちゅ

「た…たね…つけ？」

「ユウナちゃん嬉しいでしょ？
帝国人の赤ちゃん産めるんだよ(笑)」

「属州民として最高の幸せだな♡」

「な…なに…」

「オレ様の特濃種汁たっぷり
ま●こに注いでやるからな
しっかり孕むんだぞユウナ♡」

がる

ぶるん

ぐで

「ひッ!!
や…止めてッ止めてええ!!」



ずちゅ
ずちゅ
ずちゅ
ずちゅ

「やだやだやだあああッ
あかちゃんいやあああッ!!」

「あく嫌だあ!?

帝国人のガキ産めるんだぞ
種付けお願いしますだろぅがッ!!」

「いらないッ!!
あかちゃんなんていらないっ!!」

「ぐお…射精る射精る!!
孕めッ孕めユウナッ!!
帝国人のガキ孕めええッ!!」

「嫌あああああッ!!
誰かッ誰かあああッ!!」











「お…おねがいします
もうやめ…て…や…め…」

「止めてって
おいおい正気か？」

「帝国人様に種付けして
もらえるなんて
滅多にないチャンスなんだぜ
ユウナちゃん(笑)」

「み…みんな…
き…教官だ…すけ……」



「つう事で
種付けセックス始めるよ
ユウナちゃん♡」

「ふぎッ!?!」

「へへっオレのヤバいでしょ
ユウナちゃんガバまんになったらゴメンね(笑)」

「あ…あが…が…」



「オラッオラ!! どうだユウナ
オレ様のち●ぽは!!」

「ひゃあああ!!
やっ!!」

「あッあッアッ!!」

「お、良い声出しやがる(笑)」

「やら!! これやらあ!!
ああッアッアッ♡」

「種付けいくぞユウナ!!
オレ様の特濃ザーメン
ま●こでしっっかり受けとめろよッ!!」

「やらあああッ! 出さないでえええッ!!」



「やあああ♡…ふあは♡…♡」

「おろおろ
種付けされてイってやがる」

「あゝ…♡あゝ…♡
(無理矢理なのに…
あたしどうして…)

「オレ達のち●ぽ気に入ってくれてみたいだな」

「さあユウナちゃん
次はオレと種付けセックス楽しもうね♡」

「も…う…ゆる…し…」

ビュッ

んんん

びゅ
びゅ

んんん♡

んんん♡

ぞく♡











「数時間後」

「.....」

「んだよ
ユウナちゃんもう駄目なのか？」

「まったくやり過ぎんなんて
言っただろうが」

「はあ？
テメエがねちっこく
イカしまくったのが原因じゃねえのか」

「んじゃ
最後に口ま●ご使わせてもらっかな」

ずちゅ
ずちゅ



「ぶぶツ!!」
「んーツンヅーツ!!」

「おッ反応あり」

「おっこっちも締りが戻ってきやがった」

「ぶぶツ!!」

「おッ…ぐぐツ!!」

「射精すぞユウナ!!」
「口ま●こに種汁注いでやるツ!!」

「ぶぼっ…んぶツぐ!!」
「んんツんぐツ!!」

びびッ

ごぼッ

ぶぢャ

びびッ

びびッ

ずぢャ
ずぢャ



「おぶツツ…ぶぶツツんほツツ!!」

ぶ
や
ー
ツ

び
ん

「おお…お
やべえまだ出る…ツ」

び
や
ー
ツ

「はあ…はあ…オレも
射精止まらねえ…!!」

びん

「んぐ…ぐぶツツ!!
んぶツツぶツツ!!」

ん
ぶ
ツ

ん
ぶ
ツ

び
ん
ぶ
ツ



「あ……あ……あ……」

「あゝこれは壊れたな」

「ぶら〜丁度いいわ
もうキ●タマ空だし」

「でユウナちゃんどうするの？」

「その辺に捨てるときや
誰か拾うだろ」

「ユウナちゃん良い人に
出会えるといいね(笑)」

「あ……あ……」













「お、エリゼちゃん
結構大きいじゃん」

「お……お願いします
やめ……やめてく……」

「一緒に気持ち良くなるうぜエリゼちゃん」

「フウ……すげえいい匂いしやる……」

「ひッ!!」

「んじゃ
下の方も剥いちやうぜ」



「…ツ!!」

「おっ!」

「や…た…すけ…た…す…」

「もう諦めるってエリゼちゃん」

「安心したエリゼちゃん
すぐにチ●ポ好きにしてやるから(笑)」

「や…やあぁあツ!!」

「止めてツ止めてええええツ!!」



「くっおおお……！エリゼちゃん初物がよッ」

「ぐん……んっ……んぎッッ！」

ガク

んん

ブン

「オレみたいなイケメンが初めてで嬉しいだろ(笑)」

「ひッ……ぐ……んぐッ……」

ガク

「おお……やべ……久々の初物ま●こだから……ッ」

「それでも早すぎだろ(笑)」

「射精すぞッ射精すぞエリゼッ!!
オレ様のガキ孕めえええッ!!」

「いやあああああッ!!」

ぷるん

ぷるん

ずちゅ

ずちゅ

ん









「ぶいっ……エリゼちゃんの口を……吸すき……
すげえ量出たわ……」

「ぶいっ……ぶいっ……」

「ごめんねエリゼちゃん
オレ達だけ気持ち良くなって」

「次はエリゼちゃんイかせてあげるからね笑」

「……っ！んんッ！んんッ——ッ！！」











ずちゅ
ずちゅ

「ふっ…ひぐっ…んん
ひ…あぐっ!!」

「オラッオラッ!!
エリゼ我慢したって無駄だぞ(笑)」

「んぐっ…ひう…づ
ふう…ふう…!!」

「エリゼちゃんホント良い身体してるわ
胸もオレ好みの…」

「ひいあ!!」

「おっ!!…へへっ
そっかあエリゼちゃん乳首好きか(笑)」

びん



ずちゅ
ずちゅ

「やあああッ!」
「やめ…ひらああッ!!」

「乳首感じすぎだろエリゼちゃん
普段から相当弄ってることか」

「んっ♡んっ♡……」
「♡…っやあああ♡♡」

「♡…っすけ…乳首弄る度に
ち●ほキユキユ締め付けてきやがる…っ!」

「ひゅー!んんっ♡♡!!」
「♡ひゃ♡♡やあああ♡♡♡♡」

「おらイケッ!イケエリゼッ!!
アへっちまえっ!!」

「やッあッあッ♡♡」
「!!!イグッ!!イぐっ♡♡♡♡♡」

びゅ♡

「ツひやあああああッ!!」

ドッ
クッ

びゅーッ
びゅーッ
びゅーッ

レッ
レッ
レッ

「くっお…オレもイクッ!!
孕めっ!!孕めッエリゼッ!!
孕んじまええええッ!!」

「ふあ…あ…♡
アッ…♡」

「はあはあ…エリゼ
オレこのセックス最高だろ?」

「はあ…♡
ふっ…♡ふっ…♡」

「エリゼちゃん次はオレね
イキま●こガンガン突いて
アへらしてやるからな♡」

「や…う…
に…兄様…た…すけ…」

びゅ♡
びゅ♡
びゅ♡

はあー

びゅ♡



「数時間後」

ドゥ
ク
ツ

ドゥ
ク
ツ

びん

びん

「やッあッ♡あッ♡
んッんッや♡」

「どうよエリゼちゃん
奥責め最高に気持ちいいだろ(笑)」

「ひあああッ!!
おぐッおぐッやら♡」

「うっ…射精る!射精るッ!!
エリゼイけ!!種付けでイっちまえッ!!」

「やあああッ!!
あがちゃんやらあああッ!!」

「お…お…絞られるッ…」

「あ…♡あ…♡」

「おし交代
またオレのち●ほで
イかしてやるからなエリゼ」

「た…すげ…も…う…イぎだぐない…」

びん

びん

びん

びん







